

岸部市長、吉岡議長らがロシア・ハバロフスク地方を訪問、視察研修 ソ連崩壊から15年 極東のまちでも変化のうねり

このほど、ロシア・ハバロフスク地方との交流のため、岸部市長と吉岡議長、市国際交流協会伊東雅晴会長らの会員らが同地方を訪問し、視察研修と交流を行いました。

の青少年らを引き交流を行っています。このたびの訪問は、ハバロフスク側から市長と議長が正式に招へいを受けたことから、市国際交流協会との合同での訪問となったものです。

ハバロフスクとの交流は平成元年、旧合川町で児童の絵画と野球道具をロシアに寄付したことがきっかけとなって始まりました。合併後も交流が続いており、最近では市国際交流協会等の仲立ちで同地方

日程は8月4日から8日までの5日間。同地方の行政機関や農場・教育施設などを訪れ情報交換と交流を行いました。その概要を、今号と次号の2回にわたり吉岡議長の報告で紹介します。

ハバロフスクを訪問して（前編）

北秋田市議会議長 吉岡興

はじめに

このたびハバロフスクを訪問する機会に恵まれました。ハバロフスクと聞けばなぜか、ハバロフスク、ラララ、ハバロフスク...という歌と戦後の混乱期を思い出してしまいます。戦後も半世紀を過ぎた現在では時代が変わっていて、時代と共にイメージ、環境、生活文化等々全てのもので変わっているの、戦争とは切り離して考えるべきだとは思ふものの、つい戦争と結びつけて

しまうのはなぜだろう？という疑問を抱きながらの訪問でした。それが払拭できたかどうか分かりませんが、見て来た感想を走り書きしてみました。

ハバロフスク雑感

行ってみてもまず驚いたことはファッションです。自由そのもので原色を使った衣服が非常に多いことに驚かされました。もっともロシアには古くから民族衣装なるものがあり、原色をあしらった独特のファッションがあったので、派手な服装は気にならないところでしようが、



レーニン広場で。後ろの建物は第2次大戦後旧ソ連に抑留された日本人が建設したものだ

ソ連が崩壊してから歴史が急激に変化(進化?)してきているといえます。

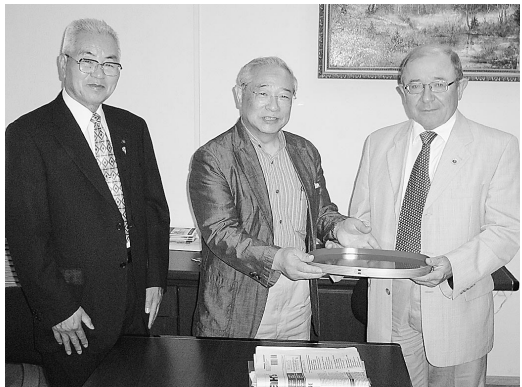
いまやロシアは世界最強を目指しているようで、遅れていると言われる底辺のレベルアップには相当気を遣っているようでIT産業がかなり浸透しているようでした。役所やホテルでもパソコンが当たり前のように使われていましたし、郊外にはIT関連の工場が年々増え続けているそうです。学校では努めてパソコンを使うよう指導されているようで、訪問したある学校では教室の後方に置かれたパソコンを教師が自慢気に説明をしてくれました。しかしそのパソコンは中古で性能は良さそうではなく台数はわずか7台でした。

また、市街地は暮盤の目のように整備されており道巾は広く街路樹が青々と茂っています。公園や広場が随所でありそこには銅像や彫刻が必ずといっていいほど置かれています。広場には樹木が非常に多く、鬱蒼とした社は人々をなごませる市街地の喧騒を消す作用があるよう、動と静が合い和しているようにも思えました。

アムール川と渡し舟
対岸に見える山の向こうは中国との国境



ハバロフスク商工会議所で
クルグリコフ会頭と



在建設中のものもあり、こちらは新と旧が同居していました。

「レーニン広場」はかの有名な偉人を讃えて作られた公園で、野球場二つほどの広さがあり花壇や彫刻で飾られ、中央にドデカイ噴水がありました。平日にも拘わらず大勢の人たちが思い思いに時を過ごしているようで、のんびりした光景に大陸の一隅を垣間見た気がしました。

* *

そのときガヤガヤ騒ぐ一団がありそこに目をやると、新婚夫婦らしいカップルが周りの人たちに祝福されながら歩いていきます。聞くとロシアでは結婚式を挙げたカップルは、多くの人たちに披露しながら町中を歩くのだそうで、それを見た人たちは幸せが訪れるということだ。

「ロシアに来て幸せになれた！」と思いつつうっとり眺めていると、突然、あそこは日本人収容者が作った建物ですよ」とガイドが傍らの古びたレンガの館を指さします。「捕虜」という言葉を使わなかったのはガイドが言葉を知らないのか意識的なのかは分かりませんが、その声に思わず「戦争」の2字が頭をよぎってしまいました。

政治・経済

また、ハバロフスクへ来て目につくのが車です。車社会と云われるのは世界的な傾向でロシアに限ったものでは無いでしょうが、よく見ると殆どがメイトインジャパンなのです。

ハバロフスク商工会議所会頭のクルグリコフ氏は、郊外に工場が建ち並び商業都市から工業に変わるうとして「と語る。さらに、木材、石油、魚などが多く日本へ輸出されているが、木材は原木で出している、これを製品にして付加価値をつけて出せたい」とつけ加える。その役目が我々(商工会議所)だと思っていると熱弁を奮います。

* *

ガソリンはリッター当りハイオ

クが150円、レギュラーが110円台なので、ロシアは石油の原産国なのに少し高いのではないかと聞けば、「この地方は石油がとれないとれても安くはならないでしょう」とにっこり微笑みました。ハバロフスク市は政府と大変うまくいっている、政府の恩恵を受けて経済力もあり結構潤っているということでした。

* *

市役所で応対してくれたノバホーバ国際局長(女性)は、10月に市長選挙があるため市長は大変忙しいと市長の不在を説明します。「選挙というのは私的なものなのでは？」と意地悪な質問を投げかけたら、市側の通訳があわてて、「いや、そうじゃないです。市長は公的にいろいろ忙しいんです」と弁解をします。

また、議会のことを聞いてみましたが通訳は議会のことを飲み込まず首をかき上げるばかりです。議会のシステムが日本と違うようでした。議会議事堂を見せてもらいたいと思っただけ通訳は再び首を傾げるのでそれ以上言えませんでした。

(次号に続く)